地域の歩みは続く

東裏小学校・保育所閉校閉所記念式典

明治 34 年 10 月 19 日、東裏小学校の前身である東裏簡易教育所が開所してから 105 年。一時は、158 名の児童が在籍しましたが、少子化の影響で年々児童数が減り、来年 3 月末をもって閉校を迎えることになりました。同時に、昭和 36 年に東裏保育園としてスタートし、地域から親しまれてきた東裏保育所も 46 年の歴史の幕を閉じます。

地域の方に見守られた記念式典

9 月 2 日、東裏小学校・保育所閉校閉所記念式典が行われ、卒業生や地域の関係者など約 300 名が参加し、これまでの歴史や思い出をしのびました。

式典では、来場者全員で声を合わせて校歌を歌ったほか、閉式の言葉では、児童代表の 5 年生川原万里奈さんが地域の方々の前で「東裏小学校の歴史が終わっても私たちは夢に向かってはばたいていく」と力強く宣言しました。続いて行われた惜別の会では、児童がステージ発表をしました。

ずっと忘れない「わたしたちの東裏」

児童が、厳しい冬をたえる防風林や春の訪れとともに飛来する白鳥などの東裏の四季、大木を切り倒して開墾した先人による開拓の苦労、冷害・いもち病などの稲の病気を乗り越えて盛んになった農業の歴史などをスライドを使い、はきはきした声で「わたしたちの東裏」を発表しました。そして、「東裏で育ったことをずっと忘れません」と誓った言葉が、来場者の心を打ちました。

また、保育所の発表では、おそろいの衣装で登場し、「思い出のアルバム」をみんなで合唱し、暖かい拍手が送られました。

豊かな大地に夢実れ　東裏の子
はばたけにれっこ　夢にむかって

記念式典で堂々と発表する児童を見てたくましく思った
ここで学んだことを活かし、自分たちの夢を実現してほしい
阿部　千里　校長

運動会で１年生から６年生までみんなで息を合わせて発表できたことが思い出　川原　万里奈さん　５年生

将来の夢は洋菓子を作るパティシエ　今井　満美子さん　５年生

地域の中心だった小学校

都市部の学校とは違い農村部の学校は、地域のみなさんが集まる場所でもありました。小学校の運動会は、地域の連合大運動会として開催され、グラウンドには、子供からお年寄りまで走り回る光景が見られました。東裏地域の方は「小学校が閉校し、PTA がなくなっても育成会は残る。自治会と育成会が協力して地域のみんなが集う場所をこれからも確保したい」と話しました。

これからは自分たちの手で

小学校の敷地内には、校歌で歌われている楡の木や昭和３年に旧校舎を新築するときに植えられたオンコなど、地域のシンボルがあります。

小学校閉校後の管理について地域では、閉校・閉所記念碑、二宮金次郎像と合わせて町から一部敷地を借りて、地域の手で管理しようと考えています。

東裏自治会会長の稲村政光さんは「卒業生や東裏の出身者が何年か後にここを訪れたときに、荒地となり草が生い茂っていたのでは、寂しい気持ちになる。先祖が東裏の中心に学校を建てた意志を継ぎ、閉校しても自分たちの手でこの場所をしっかり守っていこうと思う」と地域で管理しようと決めた理由を話してくれました。

問われる町全体での地域力

地域コミュニケーションの中心である小学校が閉校した今、町全体での地域力が試されようとしています。

当別町では、平成 15 年度に川下小学校、16 年度に中小屋中学校、17 年度に中小屋小学校、18 年度に蕨岱小学校が閉校し、農村地域から相次いで学校が姿を消しました。当別の美しい田園風景を創出するためには、農村地域の活力は欠かせません。

各地域で結びつきを確保しようとする動きもみられますが、離農や高齢化が進み人数が減っている現状では、限界があります。

これからは、農村地域と当別の市街地が交流し、お互いに活力を高め合う試みが必要になるのではないでしょうか。